

第一章 第十師團作戰計畫及作戰經過ノ概要

一 南方進進

一、第十師團（長陸軍中將國本保之）ハ昭和十六年以來滿洲國三江省ニ駐シ（司令部佳木斯）省全境ニ亘リ國境守備治安維持ニ任スルト
 共ニ部隊訓練ニ從事ス

二、昭和十九年七月二十六日大命ニヨリ南方派遣ヲ命セラレ同月三十日動員完結秘匿名稱ヲ「ワ」號演習ト稱シ嚴ニ企圖ヲ秘匿シツツ當初上海方面ニ對スル集中ヲ準備中ナリシモ三十日台灣ニ進駐スベキ命令ヲ受領シ七月下旬乃至八月中旬ニ亘リ佳木斯ヲ發シ釜山ニ集結八月中旬以降釜山ヲ發航台灣ニ進駐シ第十方面軍司令官（司令官陸軍大將安藤利吉）ノ指揮下ニ入ル

二 台灣進駐及台灣ニ於ケル作戰準備

一、師團ハ昭和十九年八月二十四日第一船團（司令部、歩兵第三十九聯隊砲丁兵ノ一部）基隆ニ上陸引揚キ第二、第三梯團ヲ以テ九月下旬迄ニ逐次台灣ニ進駐ス

二、第一梯團釜山出航以來各船團共敵潜水艦ノ追搦スル所トナルモ海洋ニ於ケル損害皆無ナリ

三、台灣ニ於ケル警隊進駐狀況ハ左ノ如シ

進駐地	部隊名	任務
台北	第十師團司令部	大甲、清水、大社山地區、台中州ニ於ケル陣地構築作戰準備 挺進攻堅訓練 師團全作戰地域ニ於ケル通信作戰準備ニ任ス
	歩兵第十聯隊（第二大隊缺）	
台中	搜索第十聯隊	台北州西邊岸（淡水河口、桃園中壢平地、坵山口）地區ノ陣地構築、作戰準備
	新聞通信隊	
台北	第一野戰病院	兵糧勤務隊、防務隊
	兵糧勤務隊、防務隊	
台北	歩兵第三十九聯隊	台北州西邊岸（淡水河口、桃園中壢平地、坵山口）地區ノ陣地構築、作戰準備
	野砲兵第十聯隊（第二大隊缺）	

備考	近	附	山	風	彰化	雙	苗
歩兵第三十九聯隊 隊へ一部ヲ以テ 興山遊軍地帯ノ 集結ヲ援助ス	衛生機關ノ一部	工兵第十聯隊 本部機關	野砲兵第十聯隊 本部機關	歩兵第六十三聯隊 第三大隊	歩兵第十聯隊 第二大隊	編遣兵第十聯隊 丁兵第十聯隊主力	野砲兵第十聯隊 主力 第二、第四聯隊 辨隊
					野砲兵第十聯隊長作兼隊長トナリ高雄州 鳳山附近ニ於ケル特殊地帯ノ集結ヲ援助 ス	編遣全作戦地域ニ於ケル砲。丁。兵の作 戦準備及集結指導	新竹州遊軍地帯ニ於ケル隊進準備。作戦 準備

二原文

四、昭和十九年十月下旬第一期計畫ニ基テ集結ヲ擬成シ十一月下旬現
況ニ照スル作戦計畫ニ基テ圖上戦術ニヨリ編遣指揮下部隊中隊長
以上戦術ヲ調整シ編遣作戦意思ノ統一ヲ圖ル

五、昭和十九年十一月十日台北ニ於ケル各師團参謀長會同ニ出席中ノ
編遣参謀長(師團大佐土原榮)ニ對シ第十師團ヲ比島ニ派遣シ第十
四方師團司令官ノ指揮下ニ入ラシムベキ要旨會合ヲ傳達セラル

六、編遣ハ十一月十一日以降全擔任地域内ニ於ケル作戦準備ヲ所在部
隊ニ移讓スル。共ニ移讓名稱「十」號演習ノ下ニ嚴ニ企圖ヲ移讓シ

五、昭和十九年十一月十日台北ニ於ケル各師團参謀長會同ニ出席中ノ
編遣参謀長(師團大佐土原榮)ニ對シ第十師團ヲ比島ニ派遣シ第十
四方師團司令官ノ指揮下ニ入ラシムベキ要旨會合ヲ傳達セラル

六、編遣ハ十一月十一日以降全擔任地域内ニ於ケル作戦準備ヲ所在部
隊ニ移讓スル。共ニ移讓名稱「十」號演習ノ下ニ嚴ニ企圖ヲ移讓シ

ツツ南方轉進ヲ準備シ軍ノ配給計畫ヲ運糧シ諸隊ヲ逐次出航地高雄附近ニ集結ス

七。之ヨリ先十日中旬台灣海峡空戰ニ際シ師團ハ台北・台中・桃園彰化各飛行場ニ於ケル防空警備ニ任スルト共ニ重要施設ノ煙霧ヲ實施シ各種情報ヲ集收ス

三 比島派遣及「サンホセ」附近(呂宋島)ニ對スル集中
一。師團長ハ新命令ニ基キ速カニ第十四方面軍ニ連絡シ爾後ノ作戰準備ヲ迅速ナラシムル爲昭和十九年十二月四日空路所要ノ司令部機關ヲ先發セシム(參謀長・參謀一・經理部長・情報部附一)

二。昭和十九年十二月十日第一船團(有馬山丸。輸送指揮官 永吉大佐)途中殺潜水艦ノ追襲ヲ排除シツマ「マニラ」ニ入港同日諸隊ヲ上陸「マニラ」號馬場「サンフランシスコ」「ヂルモンテ」附近ニ分散シ「レイテ」島「ガリガラ」附近ニ對スル進上陸ヲ準備ス。歩兵第三十九聯隊(第一大隊缺)ヲ基幹トスル「レイテ」島突入部隊ハ所要ノ部隊編成ヲ改編シ同月十三日迄ニ陸海空關係作戰準備ヲ完了セリ

原文
三頁

二。十二月十四日・朝新ニ「スリル」海ヲ北上スル敵艦送船團アルノ情報アリ同時又敵機動部隊大舉呂宋島一帶地區ニ空襲シ來タリ歩兵第三十九聯隊主力ノ乗船困難トナル。十四日午後「レイテ」島突入部隊ハ戰車・噴進砲等所要部隊ノ配屬ヲ解カレ「バタアン」半島ニ派遣シ同時師團ノ部下ヲ脱シ「マニラ」防衛司令官ノ指揮下ニ「バタアン」半島ノ守備ニ任スヘキ方艦軍命令ヲ受領ス

四。十二月十四日夜歩兵第三十九聯隊主力(第一大隊缺)及スルヲ基幹トスル「バタアン」半島守備部隊ハ海上機動(大發)及自動直線送ニヨリ「バタアン」半島「オラ」附近ニ前進スル予定ナリシモ空襲下分散セル船丁兵部隊ニ對スル命令傳達ノ不正確及舟艇集結ノ遲延等ニ依リ部隊ノ出發ハ十五日零時ニ及ビ併せて出航早々聯隊長艦ノ故障發生スル等アリ夜間機動困難ニシテ夜間空襲ニ依ル損害大ナルヘキヲ以テ晝夜ノ機動ヲ斷念一時部隊ヲ上陸。舟艇ヲ分散シ十五日夜周到ナル準備ノ下ニ一舉「バタアン」半島「タイナ

ルビヤン」附近ニ進駐セリ

五。商艦ハ意圖主力ヲ「マニラ」東北水源港附近ニ集結スヘキ要旨命
令ニ接シ所要ノ偵察準備ヲ實施シ「アロ」シ「モ」十二日十六日主力ヲ「サ
ン」ハ「セ」附近ニ集結該地附近ニ陣地ヲ占領スヘキ軍令ヲ受領シ「ハ
タア」ン」守備隊以外ノ第一梯隊諸隊ヲ自動車輸送ニヨリ「サン」ハ「セ」
附近ニ集中ス

諸隊ハ十二月十六日夜以降夜暗ヲ利用シ逐次出發十二月二十日頃迄
ニ轉進ヲ完了ス。部隊ノ機動ハ敵機ノ妨害ヲ受クルコト少ク整齊ニ
實行シ得タルモ露彈貨物ノ輸送困難ニシテ止ムナク其ノ大部ヲ所在
部隊ニ申渡殘置セリ

四頁文

六。師團主力(第二梯隊)諸隊ハ十二月十四日台灣高雄檢査員宋ニ進
發セシモ敵機動部隊ノ接近ニ伴ヒ一時反轉高雄ニ襲泊空襲ノ間隙ヲ
利用シ十二月二十三日大威丸。乾瑞丸「北」サン「フ」エル「ナ」ンド」
入港同日七艘ス。但シ乾瑞丸ハ「北」サン「フ」エル「ナ」ンド」入港約一時
間前敵潜水艦ノ攻撃ニヨリ漂流(魚雷四發命中約五十秒ニテ沈没ス)
シ歩兵第十聯隊第二大隊。歩兵第六十三聯隊第三大隊。歩兵第三十
九聯隊第一大隊。輜重兵第十聯隊主力兵員ノ約半部及兵器彈藥。貨
物ノ大部ヲ喪失セリ

第二梯隊タリシ江島丸(輸送指揮官岡山大佐)ハ當時「ア」バ「リ」附
近ニ對スル敵七艘ノ莫大ナリシ爲「ア」バ「リ」附近ニ上陸スヘキ軍令
合ヲ受領シ第二梯隊主力ト身離獨航「ア」バ「リ」ニ向ヒタルモ海上ノ
狀況甚シク「ア」バ「リ」上陸困難ノタメ二十三日「ア」バ「リ」東方約二
十浬「カ」サ「フ」ラン「カ」灣ニ投擲上陸十二月二十六日以降十二月末迄
ニ逐次「カ」フ「タ」ラン」附近ニ集結第一〇三艦隊長ノ指揮下ニ入ルヘ
歩砲兵以外ノ諸隊ハ徒歩及自動車ニヨリ逐次「サ」ン「ハ」セ」附近ニ向
フ

七。北「サ」ン「フ」エル「ナ」ンド」入港ノ乾瑞丸。大威丸諸隊ハ該地ニ留
中ノ約。被兵團諸隊兵員ヲ補充(海夜補充)セラレ北「サ」ン「フ」エル
「ナ」ンド」。「ア」ゴ「イ」。「ロ」ザ「オ」。「ウ」ミン「ガン」遣ヲ徒步行
軍ニ依リ昭和二十年一月十日頃迄ニ「サ」ン「ハ」セ」附近ニ集中セリ

「サンホセ」附近に集結し、海軍の支援を受け、左ノ如シ

五頁文

歩兵第六十三聯隊 海没補充)	野砲兵第十聯隊 (第六中隊)	獨立速射砲第二 十中隊	第一野戰病院 師團制隊
歩兵第十聯隊第 二大隊(海没補 充)	工兵第十聯隊 (一中隊)	第十師團通信隊 (主力)	師團醫務隊 師團防務給水隊
歩兵第三十九聯 隊第一大隊(海 没補充)	野砲兵第二十二 聯隊(一中隊)	獨立速射砲第十 大隊(主力)	清馬隊 其ノ他
獨歩第十一聯隊 第三大隊(缺)	野砲兵第十二聯 隊(一中隊)		
井上大隊(勳兵 團隨歩第二大隊)	中迫第六大隊		
大塚大隊(獨歩 三三九大隊)	中迫第七大隊		
搜索第十聯隊			

四 「サンホセ」附近陣地占領及同地附近ノ戰況

一、師團ハ搜索第十聯隊ヲ基幹トスル一支隊ヲ以テ「ナチビダツト」
 「サラクサク」時「イムガン」道ヲ守備セシムルト共ニ主力ヲ
 以テ「サンホセ」北方高地へ「ブンカン」附近地盤(ニ陣地ヲ占領
 スル目的ヲ以テ)ヲ確保スルヲ陣地ヲ偵察セシムルト共ニ一部ヲ「ウ
 ミンガン」方向ニ派遣シ道路橋梁ヲ破壞シ敵ノ前進ヲ妨害セシメ主
 カヲ「ブンカン」附近ニ前進セシメタリ。然ルニ偵察ノ結果ニヨリ
 「ブンカン」附近(地圖ノ不慮)ト異リ「サンホセ」北方ノ高地帯ハ
 「サンホセ」一「バンタパンガン」一「カラングラン」道方面ハ
 通過容易ニシテ然カモ阻礙シ且一カラングラン」平地ハ有力ナル
 空挺部隊ノ降下ニ適シ陣地左側後方ニ設スル膏成大
 高地ハ所々森林點在シアルモノ故ニ阻礙シ絶對制空權ヲ確保シア
 ル故ニ野スル防禦ニ適ス

陣地右翼ハ山地ニ托スルヲ得ルモ全數ノ地形上中央部突出ノ止ム

ナキニ於テ「ルバヤ」「ウミンガン」方面ヨリノ攻撃ニ對シテ右翼ヲ著シク監視ス

④前線「サンホセ」附近ノ平地（ハ、優勢ナル敵砲兵ニ對シテ充分ナル展開ノ地域ヲ提供ス）

⑤平地ノ敵ノ突進迅速ナルニ反シ、砲隊ノ集中運用並ニ陣地占領ノ餘裕少ニシテ敵ノ接觸距離的速力ニ陣地占領不十分ナル體。敵ノ攻撃ニ暴露スルノ村ムナキニ至ル

原文 六頁

等ノ理由ニヨリ到底長期ニ置キ「サンホセ」「メンバン」邊ヲ阻止シ得ザルモノト判断セリ

當時軍司令部ハ移動直後ニシテ軍ヲ無線連絡並ノ如クナラス恰モ派遣セラレタル軍ヲ要領統制及師團長ノ判断ニ調査セシマ以テ師團ハ有方ナル一部ヲ「サンホセ」北方高地ニ強置シ極力敵ノ北進ヲ拒止セシムルト共ニ主力ヲ以テ「メンバン」時東西ノ線ニ陣地ヲ占領シ同時「テインガラシ」「メンル」附近守備ニ任シアリ津田支隊ヲ餘應時ニ轉進セシメ師團主力左側ニ連繫陣地ヲ占領セシムルニ決シ陣地ヲ新決心ニ基キ部署ス

一、「ブンカン」守備部隊

長 陸軍少佐 井上 基

井上大隊（勳兵團臨時歩兵第二大隊）

歩兵第三十九聯隊第一中隊

歩兵第六十三聯隊第五中隊

歩兵第十聯隊第二大隊（第六中隊缺）

津田支隊ノ二ヶ中隊

野砲兵第十聯隊第一大隊（中中缺）

獨立速射砲第二十六大隊ノ第三中隊

獨立速射砲第二十一中隊ノ一ヶ小隊

三、「ブンカン」守備隊ハ一部（ $\frac{1}{4}$ ）ヲ「サンホセ」ニ於テ敵ノ前進

ヲ妨害シ主力ノ陣地占領ヲ遮斷セシメツマ主力ヲ以テ重點ヲ本道兩側地區ニ保持シ砲兵火力ヲ相俟ツテ陣前至近距離ニ浸透ナル火網ヲ構成シ火力ニヨリ敵ノ攻勢ヲ陣前ニ破砕スルト共ニ夜間及森林ヲ利

沼スル新込攻難ニ依リ極力敵ノ攻勢企圖ヲ破綻スル方針ノ下ニ空地ノ敵ニ越メテ全圖ヲ經營スル如ク陣地ヲ占領ス。丁寧ハ特ニ敵ノ機頭ナル砲臺ヲ奪入得ル如ク日時、許ス範圍ニ堅固ニ構築スル如ク越メタリ

對戰車防禦モ又重砲ヲ利便用河床及本道ニ指向シ對戰車部隊配置及對戰車裝備ノ重點ヲ本道兩側地域占領部隊ニ指點セリ

四。津田支隊ハ昭和二十年一月十一日・十三日以來前記師團ノ決心ニ

基ク新命令ニ基キ主力ヲ餘鹿峠ニ轉進セシムルト共ニ一部(1/4)ヲ

「パンタベンガン」南方約三軒標高三二〇高地ニ配置シ「リザール」

「パンタベンガン」道ヲ北進スル敵ニ對シ「ブンカン」守備隊ノ

左側ヲ掩護セシメタリ

五。一日下旬敵兵團重見旅團方面ヨリ進出セル敵ハ「ウミンガン」方

面ニ進出無期前遺部隊(2/65)丁兵一小隊(1)ヲ壓迫シ來タル二月一日

「タルラツク」・「ギンバ」道ヲ東進セル敵ハ「ギンバ」東側地區

ニ有力ナル砲兵ヲ展開シ砲兵團「ムニヨス」守備隊ニ對スル攻撃ヲ

開始スルト共ニ逐次東方ニ迂回シ二月四日以降「ムニヨス」ニ對ス

ル更強ク進行シツツ逐次東方ヨリ「サンホセ」ニ對スル攻撃ヲ開始

シ四日午後敵戰車及自動貨車搭載歩兵ノ一部ハ「サンホセ」東方約

二軒「サンホセ」・「リザール」道上利根川橋梁附近ニ進出スルニ

至リタリ

同日午後以降逐次「サンホセ」ニ對スル攻撃態勢ニシテ同日夜「サ

ンホセ」守備隊ハ陣地ヲ撤シ「タヤギ」附近ニ後退陣地ヲ占領ス

六。二月五日以降「サンホセ」附近ニ進出セル敵ハ有力ナル歩砲兵ヲ

要地附近ニ展開シ逐次「アンカン」守備隊ニ對スル攻撃ヲ開始スル

ト共ニ一部ヲ以テ「リザール」方面ニ對スル攻撃ヲ開始シ三二〇高

地附近ニ於ケル「リザール」ノ要地ヲ開始セラレ

七。二月六・七日頃敵兵團「ムニヨス」守備隊ハ敵ノ重砲ヲ突破撃破

シ「サンインドロ」附近ニアリシ要部隊(100)又更強ク攻撃態勢ノ

巨大ナクニ至リ「ウミンガン」附近無期前遺部隊ニ之ヨリ先玉隊

シ「ブンカン」守備隊前線ノ友軍或ハ玉隊或ハ撤收シ「ブンカン」

守備隊ニ對スル攻撃意ヲ發烈トナシニ至ル

敵ハ重砲ヲ陣地右翼ニ指向シ山地ニ道路ヲ構築シ第一線ニ砲車追撃
砲ヲ發進シ連日ニ亘ル機動ヲ繰返シ連夜ニ及ブ砲撃ヲ集中シ來タ
ル「ブンカン」守備隊砲兵ハ馬場ナル火網構成ニヨリ敵道斷斷附近
ニ砲火ヲ集注シ陣地守備隊又之ニ呼應シテ斬込攻撃逆襲ニヨリ敵ノ
前進ヲ妨害シタルモ總野訓空機下登開行動意ノ如クナラズ逐次敵ノ
進出ヲ見ルニ至ル二月中旬發、第一線ハ遂ニ右地區隊（内藤大隊）
第一線陣地ニ侵入セリ

之ヨリ先「ヨサール」「バンタベンカン」道ヲ北進セル敵、津田
支隊三二〇高地守備隊ヲ突破シ「守備隊」ハ「バンタベンカン」東側
高地ニ轉移ス（逐次「カラングラン」平地ニ侵入セリ

師團ハ逐次正面ノ轉戦ニ備ミ「山地ナルモ森林ナク有力ナル歩砲兵力
ニヨリ攻撃ニ對シ長期ノ持久困難ナルノミナラス「ヨサール」「
バンタベンカン」道ハ改修セハ容易ニ車輛ヲ通ス）大坂大隊（獨立
第三五九大隊）ヲ「デグデグ」東南方高地ニ配置シ直接「ブンカン」
守備隊ノ左側ヲ掩護セシメタリ

八「ブンカン」守備隊ハ歩砲兵緊密ナル協同ノ下ニ侵入セル敵ノ襲
撃ヲ全圖シタルモ砲兵又敵ノ砲撃ニヨリ逐次破壊セララルニ至リ
二月中旬敵ハ右地區隊全陣地ニ侵入スルニ至ル「ブンカン」守備隊
長ハ右地區隊突破セララルニ至ルモ「サンホセ」「ブンカン」五號
道路ノ重要性ニ鑑ミ殘存陣地ヲ確保シ砲ヲ五號道路側地盤ヨリス
ル敵ノ突進ヲ阻止セリ

九、守備隊右地區隊長ハ「ブンカン」西側高地後線ニ陣地ヲ占領シ砲
ヲ發進ノ進退ヲ阻止シ五號本道地盤守備隊ノ右側ヲ掩護ス

二月十五日諸敵敵ハ逐次大坂大隊ニ對シ攻撃前進シ來タリ二月二十
日頃以來敵ノ戦車ハ「デグデグ」附近ニ進出スルニ至リ同時又敵ハ
「ブンカン」守備隊右地區隊陣地ヲ突破シ「ブンカン」平地ニ進出
スルニ至リ「ブンカン」守備隊ハ遂ニ「ブンカン」南方三軒附近五

號道路側砲撃ヲ確保シ敵中ニ孤立スルニ至ル

十、二月二十三日軍命令ニ基キ師團ハ有力ナル一支隊ヲ以テ「ブンカ

原文
九頁

「守備隊ニ費難シ一ブシカン」附近ノ敵ニ對シ一大反撃ヲ決行ス
ルニ決シ步兵第六十三聯隊長ノ指揮スル步兵約一々大隊ヲ派遣セラ
ルモ時恰モ敵ハ五號連隊區ヲ突破シ師團主隊地帯攻撃準備ノ爲一ブ
シカン」平地ニ露々兵力ヲ進出中ナル状況ニ鑑ミ師團ハ出撃ヲ斷念
シ主隊地帯ヲ死守戰鬪スル決意ノ下ニ部隊ヲ撤收出撃ヲ中止ス
（出撃部隊ハ兵力ノ關係上一バシテ」本道正面第一線守備隊ヲ使
スルノ概ムナキ状況ニアリタル爲）

十一・二月二十五日軍ノ再度反撃決行ノ命ニヨリ師團ハ再度反撃決行
ニ決シ前記兵力ヲ派遣セルモ「サヲクサク」正面ノ戦況ニ鑑ミ速カ
ニ出撃ヲ中止シ右方ナル一部ヲ「サヲクサク」右方面ニ増派スベキ
軍命令ヲ受領シ部隊ヲ撤シ一部ハ歩三中迫一中（「サヲクサク」
時鐘本支隊正面ニ増派セリ）

本反撃ノ計畫ハ師團ノ予備隊皆無ノ状況ニ於テ主隊地帯第一線部隊ヲ
シテ一ヶ月半ニ亘リ構築セル陣地ヲ捨テ陣前四十軒ニ退却セシメタ
ルモノニシテ状況ニ適セス莫クニ部隊ヲ疲勞セシメ陣地構築ヲ遲延
セシメ爾後ノ戰鬪ニ甚大ナル影響ヲ及ホセリ

五・「バシテ」特東西ノ線ニ於ケル陣地占領

一、一月下旬師團ハ「主力ヲ以テ「バシテ」特東西ノ線占領」ノ決心
ニ基キ當時「ブシカン」「サシホセ」附近集中中ノ線指揮下諸隊ヲ
逐次北上シ一月下旬頃迄「バシテ」特東西地區ノ陣地占領ニ
著手ス

二、師團ノ防禦計畫ノ概要別紙ノ如シ

三、師團諸隊ハ敵軍陣地ヲ構築シ三月下旬迄ニ概本敵源ナル砲臺ニ
塔へ得ル洞窟陣地及掩護施設ヲ完成シ第一線歩兵部隊ハ地下連絡ニ
ヨリ個人散兵孔ニシテ警戒セリ

四、師團輕重等後方諸隊又銳意彈藥・糧秣ノ集積秘匿掩護施設等ノ章
節ヲ實施シ空襲夜間交通遮断・射撃・燃料不足等各種ノ困難ヲ克服シ
二月下旬迄「バシテ」特北側五號連隊區地區ニ主要彈藥約二分ノ
一會戰分及糧秣第一線保有ヲ含ミ日量糧四〇〇瓦五月初ノ分ヲ調査
施設ニ集積セリ

六・主力ノ戰鬪

①前地ノ戰鬪

一、三月下旬敵ハ逐次「チグチグ」附近大體大隊・旅團中隊（1/6⁵¹）ノ
陣地ヲ通過シ「ミヌヨ」南方林原中隊（1/6⁵²）ノ正面ニ進出スルニ至
ル

二、林原中隊ハ本道ノ要點ヲ確保シ關頭ニ移駐セル陣地ニヨリ突進セ

ム後ノ第一線部隊ヲ陣内ニ誘致シ殲滅的有聲ヲ奏ヘ敵突進ノ勢ヲ
殺傷シタルモ敵ハ逐次陣地ヲ迂回シ三月中旬於原中隊ハ遂ニ敵中ニ
孤立シ全員玉碎セリ

三。三月下旬津田支隊ハ有力ナル一部ハ第一大隊主力ヲシテ「カラ
ンダラン」附近ニ進出セム敵ニ對シ反撃ヲ決行セシメタルモ予期ノ
成功ヲ收ムルニ至ラス部隊ヲ撤シテ陣地構築ヲ促進セリ
④敵ノ前進及主陣地帯ノ守備強化

⑤ 第二挺進團及松野大隊ノ配屬

三月九日及十日「カラングラン」附近ニアリシ敵ハ戦車牽引車ヲ含
ム自動車約一〇〇〇輛ヲ以テ鈴鹿時前線ニ進出シ既正面ニ進駐ヲ
指回シ攻勢シ來ルカノ感アリ軍ハ三月十四日「ドバツクス」附近ニ
アリシ第二挺進團ヲ既正面ニ急派シ鐵兵團長ノ指揮下ニ入ラシメラ

十一頁

師團ハ第二挺進團ヲ高千穂山。北山附近ニ配置シ津田支隊ヲ併セ指
揮シ既正面ノ防禦ニ任セシム
師團ハ三月下旬於野大隊ヲ配屬セラレ之ヲ高千穂山ニ急派シ築水支
隊長ノ指揮下ニ入ラシム

⑥ 米倉大隊ノ陣地占領

我々陣地帯ハ一帶ニ高地密林ニシテ就中「バレンテ」地帯は徳水支隊
中隊地帯ハ人跡稀ナル密林地帯ニシテ僅ニ「キヤピントラン」ニ
ケ中隊(8/10)ヲ配置シ中隊地帯ノ防禦ニ任セアリシモ「ブンカン」
附近防禦ノ戰調ニ當り密林ト雖モ配兵ナケレバ道路ヲ構築前進シ其
ノ速度又大ナリニ鑑ミ更ニ有力ナル部隊ヲ中間地帯ニ配置スルノ
要大ナリ槍モ空襲ト燃料不足ニヨリ自動車輸送困難ナル状況ニアリ
シ補給兵第十聯隊第二大隊(自動車大隊)ニ所要ノ改編増強ヲナシ
妙高山ニ配置シ「バレンテ」地帯は既ノ指揮下ニ入レ既正面ノ防禦ニ
任セシメタリ

⑦ 歩兵第十聯隊ノ原所屬復讐

一。「アバカ」東方「カサブランカ」ニ上陸戦兵團長ノ指揮下ニ「ガ
フタラン」附近ノ守備ニ任ジアリシ歩兵第十聯隊ハ第二大隊(缺)ハ
一月敵ノ「オン」にエン」上陸ニ伴ヒ一月中旬以降「バガバツタ」附
近ニ轉進勤兵團長ノ指揮下ニ入り既地帯附近ノ討伐陣地占領ニ任シア
リシカ「バレンテ」地帯方面ノ攻勢強化ニ伴ヒ原所屬ニ復讐スヘキヲ
命セラレ三月十日既聯隊ヲ以テ再建三月二十日迄ノ間ニ逐次「バ
レンテ」地帯ニ到着セリ

二。師團ハ東部敵主力ヲ買山附近ニ配置シ妙高山守備隊及「キヤピ
ン」守備隊ヲ併セ指揮シ既地帯中間地帯ノ守備ニ任セシムルヲ
共ニ第三大隊ヲ「バレンテ」地帯は既ニ配屬セシメ秋風山附近ニ侵入セ
ル敵ヲ攻撃セシム

○ 敵兵團、戦線に入らず、作戦地境ノ變更

一、「サラタクサク」特正面ノ敵ハ一月下旬以降逐次給本支隊ニ對スル攻撃ヲ強化セリ

支隊ハ陣地ヲ死守シ極力敵ノ進出ヲ妨害セシモ敵正面ノ敵ハ専ら一々編團(第三十二團)ニシテ連日連夜ノ強襲ヲ受續前週シ三月上旬迄給本支隊既設陣地ニ侵入スルニ至リ支隊ハ新ニ編團セラレタル歩兵部隊

及ビノ若干(及強存兵力ヲ以テ「サラタクサク」第一陣附近ヲ拒止シアリ

二、三月下旬軍命令ニヨリ新ニ改正面ニ駐兵團(戦車第二師團)ヲ増派セラレ給本支隊ヲ併シ指揮シ該地境ノ防禦ニ任ス

三、第十師團及駐兵團ノ作戦地境

「マレコ」山、「サンタフエ」北方約五〇〇米高地——芋山ノ麓トス

原文第十三頁

仙其ノ他

一、三月下旬戦線第八聯隊及戰時機關銃第二中隊及第三中隊ヲ配屬セラレ戦線第八聯隊ヲ妙高山北麓に配置シ第十聯隊長ノ指揮下ニ入ラシメ戰時機關銃中隊ヲ「サンタフエ」^{新設}戦線に編入戰時ニ配置シ野徑防禦ニ任セシム

二、三月上旬野徑防禦隊ヲ改稱所長地上戦團力ヲ増加シ先ヲ「ミス」^{戦線}ニ對スル新込攻撃ニ任セシメタル後歩兵第六十三聯隊長ノ指揮下ニ入ラシメ「バレン」^{戦線}地境ノ防禦ニ任セシム

三、四月上旬臨時第二及第五補充隊ヲ配屬セラレ臨時第二補充隊 長 小森 少佐 (ヲ) 藤巻 山ニ配置シ該地附近ノ防禦ニ任セシムト共ニ第五補充隊 主 方 (ヲ) 長 尾 少佐 (ヲ) 青 山ニ配置シ歩兵第十聯隊長ノ指揮下ニ入ラシメタル

○ 主陣地境前附近ニ於ケル戦團

一、「バレン」^{戦線}地境正面ノ敵ハ林原中隊ノ陣地ヲ突破セル後ハ五師團ノ平行進路ヲ妨害シ「ミヌリ」北麓ニ於テ進撃セル新進軍ヲ完成シ第一連隊及砲隊連隊ヲ推進シ重砲連隊地境ニ有方ナル砲兵連隊スル等逐次攻撃準備ヲ完成セリ

三月下旬迄不明) 第一「バレン」^{戦線}地境右側(原本大段) 第一連隊地境(原文不明) 第一「バレン」^{戦線}地境正面ニ對シテモ戦線ナル砲隊連隊ノ下ニ第一連隊中隊(第一

六、通商ハ幕末支隊正面ノ敵ノ全圖發達のナラザルニヨリ該支隊ヲシテ勉メテ積極果敢ナル攻撃ニヨリ敵ノ右翼ヲ脅威セシム

幕末支隊委ハ一部ヲ以テ秀山ニ番スル壓迫ヲ強化スルヲ共ニ津田支隊ノ一部ヲシテ四月上旬、中旬二回ニ亘リ青山、先陣山ノ敵ヲ攻撃セシメタリ津田支隊ノ決行セシ第一攻隊ハ諸敵ノ果敢ナル攻撃ニモ不拘後期ノ成果ヲ收ムルニ至ラズ第二攻隊ハ一部先陣山據點ヲ奪取セルヲ畫圖ノ陣地確保困難ニシテ之又充分ナル成果ヲ收ムルニ至ラザリシモ敵又「カラシ」附近ノ部隊ヲ該方面ニ増加シ敵兵方ヲ該正面ニ吸収釘着シ得タリ

七、四月中旬津田支隊ノ先陣山青山攻隊ニ連繫スル幕末支隊高千穂山守備隊ヲ以テスル秀山攻隊ハ之又後期ノ成果ヲ收ムルニ至ラザリシモ爾后該正面敵ノ行進全ク消滅化スルニ至ル支隊長ハ山上ノ状況ニ鑑ミ有方ナル一部ヲ遣テ敵ノ後方ニ進軍セシメ青山秀山南麓「ミスリ」附近敵主力砲兵ヲ求メテ攻撃シ「メレチ」地區敵ニ積極奮力スルニ決シ四月上旬約六ヶ中隊ヲシテ夜襲秀山附近敵ノ第一線ヲ突破潛入セシム敵部隊ハ展開ナル準備ノ下ニ二線ノ攻隊區段ニヨリ賣出、ミスリ、妙高山南麓ニ進軍潛入シ敵主力砲兵、追突メテ攻撃ス、敵ハ全圖展開ヲ望ムル望中偵察エヨリ潛入部隊ノ全圖ヲ察知セルモノノ如ク賣出妙高山南麓主力砲兵ヲシテ一時「ミスリ」南方地區(ミスリ南方陣地)ニ陣地ヲ構築シ爲ニ攻隊部隊ハ所期ノ目的ヲ達成シ得ザリシモ強存砲兵與捷勇歩兵ニ容大ナル打撃ヲ與ヘ陣地、砲臺集積所多數ヲ破壊セリ本攻隊ハ攻撃エヨリ直接果敢ノ類クナラザリシモ敵主力砲兵ヲシテ一時陣地ヲ放棄セシムルヲ敵主力方面ノ攻隊ヲ中斷セシメ「メレチ」地區敵ニ對スル敵ノ壓迫ヲ強化セシメ一時攻隊進軍ヲ中斷セシムルヲ得

八、高山守備隊ハ有力ナル新込隊ヲ推進高山砲臺ニ對スル砲撃ヲ
 敢行工兵部隊又有力ナル新込隊ヲ推進セシメ多大ノ砲撃ヲ敢メタリ
 師團砲兵隊ハ砲臺ノ關係ヲ利用シ通時運切ナル砲火ヲ本道兩砲及
 妙高山攻隊前進中ノ敵ニ集中スルト共ニ臨時山砲中隊ヲ編成シ爾山
 南方高地ヲ占領シ直接側方ヨリ妙高山ノ砲臺ニ砲力セリ此ノ關係兵
 陣地ニ對スル敵の砲撃難燃烈ニシテ砲ノ埋没シキリナリシモ砲兵隊
 將兵晝夜連續ノ努力ニヨリ射撃晝夜連續射撃ヲ反覆シツツ當時二一
 六門ノ火砲ヲ活用シ物質力能ノ敵ニ對シ突破困難ヲ思ハシムルヲ得
 タリ

「バレナ」地區正面ノ敵ハ歩兵第二十五師團ニシテ其ノ放逐ニヨレ
 バ「バレナ」地區ノ突破ハ比馬全連軍ノ協力ヲ得サレバ困難ナリ
 ノ懸念ヲアゲテイタル程ニシテ師團砲兵ノ健在ハ主陣地帯確保ノ極
 軸ナリ

(4)、主陣地帯内ノ戦闘

原文16頁

一、妙高山守備隊ハ第一線井上支隊ヲ喪失セルモ第二線松崎支隊ヲ
 確保シ死守敢闘シアリシモ相對優勢ナル砲臺擊破ニ戰車重砲ニヨリ
 漸次陣地ヲ侵蝕セラレ四月中旬砲隊妙高山米倉大砲連ニ全滅陣地ヲ
 死守シテ玉碎セリ師團ハ之ヨリ先「バレナ」地區敵ヨリ宮崎大砲一
 門⁶³¹ 一部缺一德永支隊ヨリ三個中隊ヲ急派セシメ妙高山北麓麓
 ヲ占領シ敵ノ進出ヲ拒止セシメタリ「妙高山守備隊」ハ當時迄「バレ
 ナ」地區敵長ノ指揮下ヲ脱シ高山地區敵長(OL長)ノ指揮下ニアリ
 二、「バレナ」地區敵正面ノ敵ハ優勢ナル砲臺支援ノ下ニ攻撃前進シ
 其ノ砲撃一日六千乃至九千發ニ及ビ陣地ハ砲撃炸裂ノ瓦斯ニヨリ
 中毒死者續出敵ノ瓦斯彈使用ヲ思ハシムル如キ熾烈ナル戦闘ナリシ
 モ砲臺ノ陣地ヲ死守シテ敢闘セリ

三、四月二十日頃敵ノ一部ハ意ノ配置シアシ遊撃中隊ヲ撥放シ金剛山
 妙高山中間地區ヨリ一舉金剛山山頂ニ進出遊撃附近ニ陣地ヲ占領セ
 リ師團ハ金剛山ノ重要性ニ鑑ミ德永支隊ノ妙高山南側ヨリスル攻撃
 ノ爲メ準備シアリシ三個中隊ヲ抽出シ該地附近ノ敵ヲ攻撃セシム
 金剛山攻撃部隊ハ四月二十七日「バレナ」地區敵陣地ニ到着所要ノ

準備ヲ行ヒタル後四月二十八日夜間攻撃ヲ敢行引續キ二十九日晝
 攻撃ヲ續行セルモ友軍砲連ノ協力意ノ如クナラズ敵ハ砲臺ニヨリ
 砲料ヲ投下シツツ漸次兵力ヲ増加シ引續キ續行セル「バレテ」地區
 敵ノ攻撃又成功ヲ見ルニ至ラズ敵ハ逐次北方ニ進歩ヲ強張スルト共
 ニ「バレテ」地區敵ニ對シ積極的攻撃ヲ開始シ五月上旬本道西側ヲ
 前進セシ敵ハ「バレテ」地區敵右正面ヲ突破スルニ至リ地區敵ハ
 敵ヲ金剛山原部ニ集結シ砲マデ五連連東側ヲ確保シ敵中ニ孤立スル
 ニ至ル師團ハ工兵第十聯隊ヲシテ天王山金剛山○子山孫山ニ陣地ヲ
 占領セシノ砲兵隊ヲ掩護セシムルト共ニ「バレテ」地區敵小妻大敵
 一應時第二補隊一ト協力シ敵ノ進出ヲ拒止セシム

四、師團ハ徳水支隊正面ノ戦況ニ鑑ミ徳水支隊ヲシテ妙高山金剛山方
 面ノ敵砲兵ヲ求メテ新込攻撃ヲ實施セシムルト共ニ有方ナル一隊ヲ
 シテ「〇〇〇」射指揮スル歩兵約三ヶ中隊一妙高山原部ヨリ「バレテ」
 地區敵正面ノ敵ニ果敢ナル攻撃ヲ敢行セシム

師團砲兵隊ハ全火力ヲアゲテ「バレテ」地區敵ノ戦團ニ協力シアリ
 シガ五月中旬敵ハ逐次州境ノ線ヲ突破シ砲兵陣地ニ侵入シ砲又敵隊
 セラレシヲ以テ師團ハ恰モ配屬セラレタル第二砲水隊ノ率部第三砲
 水隊玉井大敵（砲歩兵第十八大敵）山田中隊（電報中隊）小川大
 敵（三〇〇）ヲ砲兵隊ニ配屬シ清水谷朝日山ニ進出セル敵ヲ攻撃セ
 シムルト共ニ新込ニ特別挺進新込敵（徳水支隊選抜）ヲ選成シ敵軍
 砲臺ニ對スル砲連ヲ強化シツツ津田支隊長ノ指揮スル歩兵約一ヶ大
 隊ヲ蘆山ニ配置シ主陣地後端ニ新陣地線ヲ占領セシムルト共ニ「サ
 ンタフエ」附近ニアリシ野砲砲臺ヲ「アリタオ」東原方面地區ニ搬送
 セシム

七、主陣地後方進軍ノ要領

一、五月中旬「バレテ」地區隊ハ逐次戦力ヲ消耗シ金剛山南麓方面ニ一線ヲ占領スルニ過ギス敵ハ五強道路ヲ解放シ兵力資材ヲ進送シ工兵第十聯隊増田隊(金剛山攻撃後朝日山ニ配置セラシ工兵第十聯隊ニ配屬セラシタル徳永支隊ノ一部)野砲兵第十聯隊(配屬部隊ト共ニ地上戦闘)ニ對スル攻撃ヲ強化セルヲ以テ師團ハ「バレテ」地區隊ヲ撤收シ津田支隊龍山占領部隊ノ左側ニ連繫陣地ヲ占領セシムルト共ニ師團司令部ヲ龍山北側ニ轉移ス「バレテ」地區隊ハ五月中旬夜間ヲ利用シ敵中ヲ突破先ツ龍山附近ニ後退シタル後逐次龍山南麓高地ヲ占領セリ

原文18頁

二、軍ハ「バレテ」正面ノ戦況ニ鑑ミ五月中旬戦車撃滅隊(軍教育隊幹部基幹臨歩第二十五大隊撃兵團殘存戦車砲兵若干)ヲ「ボネ」南方隘路口附近ニ配置シ陣地ヲ占領セシメタリシガ五月下旬該部隊ヲ鐵兵團長ノ指揮下ニ入ラシメラル

師團、砲兵隊津田支隊、歩兵第六十三聯隊、工兵第十聯隊ヲシテ「サンタフエ」ト龍山ノ線ニ戦車撃滅隊ヲシテ「ボネ」兩方ニ二線ニ陣地ヲ占領シ敵ノ突進ヲ拒止セシム

三、五月下旬朝日出「サンタフエ」西側地區ニ進出セル敵ハ航空機砲兵支援ノ下ニ本道兩側地區砲兵隊津田支隊陣地ヲ突破シ六月四日戦車ヲ有スル有力ナル敵ハ遂ニ戦車撃滅隊陣地ヲ突破シ「アマタオ」附近ニ進出スルニ至ル

八、主力ノ轉進及終戦

一、「アマタオ」附近ニ進出セル敵ハ主力ヲ以テ「バンベン」方向ニ攻撃前進スルト共ニ一部ヲ以テ師團ノ後方ヲ遮斷シ「コモン」ト「サンタクラ」方向ニ攻撃ス當時軍トノ通信連絡全ク杜絶シアリシ状況ナルヲ以テ六月九日師團長ハ獨斷徳永支隊ヲシテ當面ノ敵ヲ拒止セシメツテ主力ヲ以テ「カシブ」附近ニ轉進シ五強道東側要地ニ據點ヲ占領シ「キアンガシ」方面ニ突進シ後方ヲ脅威スルト共ニ軍主力方面ノ戦闘ニ協力スル目的ヲ以テ主力ヲ轉進セシムルニ決シ先ツ後方ノ敵ニ對シ歩兵第十聯隊長ヲシテ約一隊(イ/10)ヲ「サンタクラ」附近ニ派遣セシメ師團ノ轉進ヲ掩護セシム

- 二、海軍部隊（營水支隊）ハ六月十日頃（六月十七日頃）以降逐次陣地ヲ撤シ七月旬（七月下旬）頃迄ニ「カシブ」ハ「ビナバガン」附近ニ集結セリ
- 三、海軍ハ主力ヲ以テ「カシブ」附近ニ於テ戦力ヲ恢復シツツ「バンベン」方向ニ對スル攻撃ヲ準備スルト共ニ一部ヲ「ビナバガン」附近ニ派遣シ糧秣ヲ收集シ持久抗戰態勢ノ確立ヲ準備シアリシモ七月下旬「バンベン」及「ドバレクス」方面ヨリスル敵ノ攻撃漸ク熾烈トナリ「カシブ」ハ海軍ノ豫想ニ反シ糧秣少ナク「ビナバガン」方面ヨリスル輸送全ク困難ナリシヲ以テ海軍ハ全力ヲ「ビナバガン」附近ニ集結該地ヲ復讐トシ最後的徹底抗戰ノ目的ヲ以テ「カシブ」附近所在部隊ヲ轉進セシメ概ネ八月下旬迄ニ諸隊ノ轉進ヲ完了セリ
- 四、九月十日夕軍使露森中尉到着軍司令官ニヨル終戦降伏ノ命令ヲ受領ス海軍ハ軍命令ニ基キ九月十四日以降二十二日ノ間「ヨネス」ニ於テ米第三十七師團ニ投降ス

原文19頁

九、作戰地兵要地誌ノ概要

一、地勢

- 1、「バレテ」緯東西ノ線ハ中、北部呂宋州境ノ山脈ニシテ標高概ネ七〇〇米以上ノ山脈連ナリ一帯ニ密林ニ覆ワレ山嶺ハ雲霧ニ閉サル且多ク人跡又稀ナリ（山頂ニ土人道アルノミ）
- 2、「サンホセ」北方高地ハ標高概ネ五〇〇米前後ニシテ所々森林尙在シアルモ一般ニ開闢シアリ
- 3、「カラングラン」周邊ノ地區ハ一帯ノ平地ニシテ空挺部隊降下ニ適スルノ米ナラス飛行場ノ急速設備戰車部隊ノ活動等ニ便ナリ

二、道路及橋梁

- 1、五號道路（「サンホセ」―「バレテ」―「バンベン」道）ハ幅約十米路盤堅硬ニシテ重車輛ノ行動自在ナリ諸所橋梁アルモ概ネ短橋ナリ
- 2、「リサール」―「カラングラン」道ハ荒廢シアルモ路線確實ニシテ簡單ナル工事ヲ以テアセバ車輛ノ通過容易ナリ
- 3、「カラングラン」―「餘麻峠」―「アサオ」道ノ平地ヲ通スル部分ハ若干ノ工事ヲホドモセハ車輛ノ通過自在ナルモ山地ヲ通スル部分ハ全ク

原文20頁

三、其ノ他

定廢シ鐵木密生シテ諸所路線管線ヲ發見スルノミニシテ遙遠困難ナリ

1、作戰地ハ諸所村落點在シアルモ「マンカン」「デグデグ」「シヌリ」「カラングラン」「サンタフエ」ハ住民概ネ逃亡シ物資又少ク利用スヘキモノナリ住民ハ一般ニ我ニ好意ヲ有セス米軍ノ誘導物資輸送ニ協力セルモノ多シ

2、昭和二十年一月以降六月迄ノ間概ネ天候晴ニシテ雨少ク敵航空機ノ活動ヲ容易ナラシメタリ

第十編
原文21頁

